

「バルトン氏一行をもてなす」山陰新聞より  
 本市水道敷設の調査設計を委託したバルトン氏一行を擁せんたり市有志は一昨夜宴を臨水亭（前橋に雲陽館とせしは譲りてに開きしかまら台するもの）は市参事會員市會議員の過半市書記其他岡崎運兵衛森脇甚右衛門高城権八岡本金太郎山崎幹田野俊貞等の諸氏にして大約三十餘名席定まるや岡崎市長は起ちて演説して曰く嘗てバルトン氏を聘て當市に最も必要なる水道敷設の調査設計を托せんか爲めに其來秘を請ひしに公務の暇を以て態々來松せられコレより事に此に従はるゝ事となれり併し調査の結果、果して市の負擔に任し得らるゝや否やは市の經濟如何に在り必らずしも其成を期すへきにむらす況んや吾等の水源地と仮定するものが果して供給に餘裕あるや否やも亦未だ保すべからざるに於てをや唯其結果にして今日市民の力に稱はずとするも他日經濟の之を許す時あるに於ては數万の生靈をして俱に其の利を被むらしむるの途に出でざるべからず幸にして此に至らばコレ取りも直さずバルトン氏當度來松の賜ものとして吾人市民は永世に其の慶を紀念して忘るゝことなかるへし今日は僅かに山陰の僻陬を厭はず來着されたるの厚意を謝するの万一なるのみ若しも吾人が滿腔の誠意此少宴を張りしとを諾せらるゝを得ば何の光榮か之に如かんや云々と同行の高橋工學士は通譯して此意をバルトン氏に傳ひしに氏は頗る感せし者の如く頓て起ちて左の答辭を述べたり

市長たる福岡の君よ今日は意外にも優遇を辱ふし實に感謝する所なり況して昨今は當市に凱旋の名譽を荷ふて續く歸來する日本帝國の軍人歡迎等頗る敬すべく賀すへき時節にして隨ひて最も混雜を極むるにも拘はらず吾等一行を優遇せらるゝ如きは尙更其厚意を謝せざるべからず之れと全時に吾等は唯耻入るの外なし市長の君は此の松江を目して山陰の僻陬なりと稱せらるれど吾等は夙に我同國人又は他の國人よりして山陰に松江の名勝あることを傳知し一たびは此の最古の歴史を有する名勝の區へ杖を筈かんとを望みしに思ひかけなく今日此の地に來りて宿昔の希望を達せり此の光景に對して此の消雲を受く吾等は殆んど謝する所以を知らず云々との趣意にてありき次きて宴に移りしか宴酌なるとき高橋學士と與に一時席を辭し俱に白地の浴衣を被換へてへこ帯にて着席しコレが日本流の席上にては大に氣樂なりとて獻酬蕩くか如きの間に在りて頗る日本流の造作進退に巧みなりし殊には稍酔ふては各人の間に奔走して獻酬する等落々として殆んど外人とは思はれざる程なりしか十時頃退式せられたり因みに記す氏は蘇格蘭人にして年齒は當年四十、日本に雇はれて來りしは去る二十、日本語も多少は解する所あるが如し

「バルトン一行をもてなす」山陰新聞より 明治28年(1895年)7月26日

当市の水道敷設の調査設計を委託したバルトン氏一行をもてなすため、市の有志は一昨日の夜、臨水亭で宴を開いた。集まったのは市参事會員市會議員の過半、市書記その他、岡崎運兵衛、森脇甚右衛門、高城権八、岡本金太郎、山崎幹、田野俊貞などの三十名余りであった。

・・・ 中略 ・・・

バルトン氏はスコットランド人で年齢は今年四十、日本に雇われて来たのは去る明治二十年、日本語を多少理解することができるようだ。

と新聞にある。